

TECHNICAL DATA

仕上げの種類	2液弱溶剤形ふっ素樹脂塗料
製品名	キクスイDPM1

下塗材：2液弱溶剤形エポキシ樹脂系万能下塗材

「キクスイDPMプライマーM」

中塗材：2液弱溶剤ウレタン樹脂塗料中塗（JIS K 5659）

「キクスイDPM中塗」

第4版 作成日： 2016年8月17日



菊水化学工業株式会社

標準施工仕様書

- 仕上げの種類 : 2液弱溶剤形ふっ素樹脂塗料
- 製品名 : キクスイDPM1
- 素地 : 亜鉛めっき鋼面
- 部位 : 内外部壁面

工程	材料・調合	施工用具・条件	塗回数	間隔時間 (23°C)	塗付け量
素地調整	下地処理は2種ケレン以上とする。 白さび等は、ワイヤーブラシ、サンドペーパー等で除去する。 塗膜面の油分、塵埃、水分等の付着物は完全に除去する。				
下塗り	キクスイDPMプライマーM 主 材 : 14.4kg 硬化剤 : 1.6kg 塗料用シンナーA : 0~1.6L	エアレススプレー ローラー 刷毛等	1	4~168 (7日)	0.14 kg/m ²
研磨紙ざり	研磨紙P120~220にて研磨紙ざりを行う。				
中塗り	キクスイDPM中塗 主 材 : 17kg 硬化剤 : 1kg 塗料用シンナーA : 0~1.8L	エアレススプレー ローラー 刷毛等	1	8~240 (10日)	0.14kg/m ²
上塗り	キクスイDPM1 主 材 : 14kg 硬化剤 : 2kg 塗料用シンナーA : 0~3.2L	エアレススプレー ローラー 刷毛等	1	6~168 (7日)	0.10kg/m ²

注1 施工用具・条件は代表的なものです。

注2 間隔時間・塗付け量の値は標準的なものです。施工方法・器具、被塗物の形状、素地の状態、施工条件により各々多少の幅を生じることがあります。

注3 塗付け量の確認は塗見本との比較または単位体積当たりの使用量で確認して下さい。

注4 各塗料の可使時間は以下の通りです。下塗材 : 7時間、中塗材 : 7時間、上塗材 : 5時間。

注5 塗料用シンナーAを使用して、下記用量を目安に希釈してください。

下塗り : エアレススプレー0~1.6L、刷毛・ローラー0~0.8L。

中塗り : エアレススプレー0~1.8L、刷毛・ローラー0~0.9L。

上塗り : エアレススプレー1.6~3.2L、刷毛・ローラー0~1.6L。

● 荷

姿

下塗材：	キクスイDPMプライマーM	【主 材】	NET：	14.4kg/缶
		【硬化剤】	NET：	1.6kg/缶
中塗材：	キクスイDPM中塗	【主 材】	NET：	17.0kg/缶
		【硬化剤】	NET：	1.0kg/缶
上塗材：	キクスイDPM1	【主 材】	NET：	14.0kg/缶
		【硬化剤】	NET：	2.0kg/缶

成分表

●下塗材：キクスイDPMプライマーM

【主 材】

内 容	重 量(%)
着色顔料	40.2
特殊変性エポキシ樹脂ワニス	42.1
添加剤	4.3
溶剤	13.4
計	100.0

【硬化剤】

内 容	重 量(%)
イソシアネート樹脂ワニス	26.0
添加剤	74.0
計	100.0

●中塗材：キクスイDPM中塗

【主 材】

内 容	重 量(%)
着色・体質顔料	43.4
変性エポキシ樹脂ワニス	40.7
添加剤	5.8
溶剤	10.1
計	100.0

【硬化剤】

内 容	重 量(%)
ケチミン樹脂ワニス	100.0
計	100.0

●上塗材：キクスイDPM1

【主 材】

内 容	重 量(%)
ふっ素樹脂ワニス	37.7
着色顔料	25.5
添加剤	2.5
溶剤	34.3
計	100.0

【硬化剤】

内 容	重 量(%)
イソシアネート樹脂ワニス	51.2
溶剤	48.8
計	100.0

性能試験成績書

種類	2液弱溶剤形ふっ素樹脂塗料	
製品名	キクスイDPM1	
供試材料	キクスイDPM1	
試験方法	JIS K 5659:2008 鋼構造物用耐候性塗料 上塗り塗料1級に準拠	
項目	規定	結果
容器の中の状態	主材・硬化剤ともにかき混ぜたとき、堅い塊がなくて一様になること	合格
表面乾燥性	表面乾燥すること	合格
塗膜の外観	塗膜の外観が正常であること	合格
ポットライフ	5時間で使用できること	合格
隠ぺい率 %	白・淡彩は90以上、鮮明な赤及び黄は50以上、その他の色は80以上	合格
鏡面光沢度(60度)	70以上	合格
耐屈曲性	折り曲げに耐えること	合格
耐おもり落下性 (デュポン式)	割れ及びはがれが出来ないこと	合格
層間付着性	異常がないこと	合格
耐アルカリ性	アルカリに接したとき、異常がないものとする	合格
耐酸性	酸に接したとき、異常がないものとする	合格
耐湿潤冷熱 繰り返し性	湿潤冷熱繰り返しに耐えること	合格
混合塗料中の加熱 残分%	白・淡彩は50以上、その他の色は40以上	合格
促進耐候性	塗膜に、割れ・はがれ・膨れがなく、照射時間2000時間後の光沢保持率は80%以上で、色の変化の程度が見本に比べて大きくなく、白亜化の等級が1以下であること	合格
屋外暴露耐候性	塗膜に、割れ・はがれ・膨れがなく、光沢保持率が60%以上で、色の変化・艶の変化の程度が見本に比べて大きくなく、白亜化の等級が1以下であること	合格

上記数値は代表値であり、製品の数値等を保証するものではありません。あらかじめご了承ください。

性能試験成績書

種類	2液弱溶剤ウレタン樹脂塗料中塗 (JIS K 5659)	
製品名	キクスイDPM中塗	
供試材料	キクスイDPM中塗	
試験方法	JIS K 5659:2008 鋼構造物用耐候性塗料 中塗り塗料に準拠	
項目	規 定	結 果
容器の中の状態	主材・硬化剤ともにかき混ぜたとき、堅い塊がなくて一様になること	合 格
表面乾燥性	表面乾燥すること	合 格
塗膜の外観	塗膜の外観が正常であること	合 格
ポットライフ	5時間で使用できること	合 格
隠ぺい率 %	白・淡彩は90以上、鮮明な赤及び黄は50以上、その他の色は80以上	合 格
上塗り適合性	支障がないこと	合 格
耐屈曲性	折り曲げに耐えること	合 格
耐おもり落下性 (デュポン式)	割れ及びはがれが出来ないこと	合 格
層間付着性	異常がないこと	合 格
耐アルカリ性	アルカリに接したとき、異常がないものとする	合 格
耐酸性	酸に接したとき、異常がないものとする	合 格
耐湿潤冷熱 繰返し性	湿潤冷熱繰返しに耐えること	合 格
混合塗料中の加熱 残分%	白・淡彩は60以上、その他の色は50以上	合 格

上記数値は代表値であり、製品の数値等を保証するものではありません。あらかじめご了承ください。

性能試験成績書

種類	2液弱溶剤形エポキシ樹脂系万能下塗材	
製品名	キクスイDPMプライマーM	
供試材料	キクスイDPMプライマーM	
試験方法	JASS 18 M-109に準拠	
項目	規定	結果
容器の中の状態	主材・硬化剤ともにかき混ぜたとき、堅い塊がなくて一様になること	合格
乾燥時間(h)	16以内	合格
塗膜の外観	塗膜の外観が正常であること	合格
ポットライフ	5時間で使用できること	合格
耐衝撃性	割れ及びはがれが出来ないこと	合格
上塗り適合性	上塗りに支障がないこと	合格
耐塩水性	塩化ナトリウム溶液に浸しても異常がないこと	合格

* 上記数値は代表値であり、製品の数値等を保証するものではありません。あらかじめご了承ください。

施工にあたっての要点（溶剤編）

●下地

- 【1】 下地処理は2種ケレン以上として下さい。
- 【2】 旧塗膜の浮き・剥がれ・チョーキング層等は除去してから施工して下さい。
- 【3】 塗膜面の油分、塵埃、水分等の付着物は完全に除去して下さい。
- 【4】 素地の乾燥は十分行って下さい。
- 【5】 シーリング材の上に施工する場合、シーリング材の種類等により、汚染や密着不良を起こすことがあります。詳しくは弊社営業所までお問い合わせ下さい。

●施工

- 【1】 色・模様決定に当たっては、原則として塗見本を作製して、工事監理者の承認を受けて下さい。
- 【2】 塗見本は、必要に応じて工程ごとに手順が分かるものとします。
- 【3】 所定の塗付量に達しない場合や超えてしまう場合には、種々の欠陥を生じる場合があります。所定の塗付量を守って施工して下さい。

●材料

- 【1】 材料は直射日光下での保管は避けて下さい。
- 【2】 開缶後外気と触れることで反応が進み変質する場合がありますので、開缶後は早目に使用して下さい。
- 【3】 火気に注意し、消防法及び労働安全衛生法等を厳守して下さい。
- 【4】 既調合タイプの材料を希釈したり、他の材料と混合しないで下さい。

●工法

1. 材料の取扱い

- 【1】 製品は使用前に均一に防爆ミキサーで混ぜ合わせて下さい。
- 【2】 希釈に必要な製品は指定の希釈材を使用し適切な量、適切な方法で均一に薄めて下さい。
- 【3】 製品の希釈には所定の専用希釈材を使用してください。
- 【4】 2液形の製品は、主材と硬化剤を指定の比率で調合し、特に小分けでご使用の場合は計量器で正確に計量を行なって下さい。混合後の製品は、可使時間以内に使い切ってください。また、可使時間は温度、希釈によって変わりますので、混合後はなるべく早く使い切ってください。
- 【5】 水、アルコール系溶剤の混入は避けて下さい。
- 【6】 製品の取り扱いについての一般的な注意事項の詳細はSDS（安全データシート）を参照して

下さい。

2. 下塗り

- 【1】 下塗りは、下地の吸い込みとそのばらつきを防ぐため、だれ、塗り残しのないように均一に塗り付けて下さい。コーナー部など入隅、出隅は特に入念に塗付して下さい。
- 【2】 下塗材は、特に乾燥過程で水（降雨、結露等）の影響を受けると発火することがあります。白化した場合は、軽く表面研磨する等の処置を行ってから次工程に移ってください。

3. 中塗り

- 【1】 中塗りは、だれ、塗り残しのないように均一に塗り付けて下さい。コーナー部など入隅、出隅は特に入念に塗付して下さい。

4. 上塗り

- 【1】 上塗材は色むら、だれ、光沢むらのないよう均一に塗り付けて下さい。
- 【2】 上塗材の希釈率は試験塗りなどにより決定し、それ以降は同一の希釈率で使用して下さい。希釈率は色相及び施工時の気温により変化します。

5. 施工方法

- 【1】 各種標準施工仕様に記載の所要量及び間隔時間を守って施工して下さい。

●施工管理

- 【1】 施工場所の気温が 5°C 以下、湿度が 85%以上又は結露の発生が考えられる場合は、塗膜の乾燥過程で種々の欠陥を生じることがありますので、原則施工をしないで下さい。
- 【2】 降雨、結露、降雪のおそれ、または強風のおそれがある場合は施工を中止して下さい。
- 【3】 直射日光下で施工する場合は、適切な養生をし、下地表面の急激な温度の上昇を防止して下さい。
- 【4】 施工しない箇所はあらかじめ養生をし、その他の材料が付着しないようにして下さい。

●その他の注意事項

- 【1】 残材や施工器具等の洗浄廃溶剤などは専門業者に委託するなど適切に処理して下さい。
- 【2】 溶剤系塗料のため、室内での塗装、取扱い時は必ず換気し、火気厳禁にしてください。
- 【3】 磁器タイル洗浄用の酸が表面に付着すると変色したり、溶解することがあります。磁器タイルの洗浄用の酸が塗装面に付着する可能性がある場合は、必ず塗装面のマスキングを行って下さい。
- 【4】 刷毛、ローラー、スプレー等、施工方法により若干の色相差を生じることがあります。
- 【5】 断熱性の高いサイディングパネルなどに施工する場合は、蓄熱したり、水の影響や、下地の状態、塗装時の環境など条件により、塗膜の膨れ、はがれなどが生じることがあります。

- 【6】 JIS 認証品は、下塗材・主材・上塗材を同一メーカーの指定された製品を使用しないと、JIS 認証品ではありません。
- 【7】 艶調整品は被塗物の形状、膜厚や色目、塗回数、希釈率により、つやが異なって見える場合があります。また、刷毛・ローラー塗装時の塗継ぎ箇所ですら艶ムラを生じやすい傾向にあります。試し塗りの上、本施工して下さい。
- 【8】 濃色や原色に近い色彩は、塗膜を強く擦ると色落ちすることがあります。衣類などに触れる可能性のある部位への施工は避けて下さい。
- 【9】 上塗りに黄色、赤色、青色、緑色系など彩度の高い色目を塗装する場合は、隠ぺい性を高めるため、あらかじめ隠ぺいの良い共色を塗装して下さい。
- 【10】 彩度の高い色目は、退色、色むらが早期に生じることがあります。
- 【11】 旧塗膜の種類により、下塗材を選定して下さい。
- 【12】 改修施工で溶剤系を使用する場合、下地を侵し膨れ、縮み（リフティング）などの異常が発生することがありますので、事前に試し塗りで確認して下さい。

*本仕様書の内容は予告なしに変更することがあります。施工に当たっては常に最新版の仕様書を参照するようにして下さい。